

## 部 会 討 議 概 要

第14回大会で各部門に別れて討議した概要をお知らせする。座長ならびにとりまとめを、1部会は藤井氏、2部会は古田氏、3部会は関谷氏にお願いした。

### 1 部会 保護啓蒙、条例、観光について(参加者16名)

#### (1) 保護、啓蒙運動の組織と現況

山口県豊田町「木屋川ゲンジボタル保存会」国指定天然記念物。農業・合成洗剤追放運動計画  
中。 仙台市「仙台ホタルの会」40名。ヘイケボタルの人工増殖。 福岡県赤村「ホタルを守る  
会」5名、フ化放流 熊本市「画津湖を守る会」自然を守る運動。 滋賀県大津市「石山源氏  
育成保存会」60名。環境保護運動。 熊本県阿蘇町「はたるの会」合成洗剤による影響をオタマ  
ジャクシで調査し、追放運動へと発展させてゆく。 佐賀県塩田町町役場で増殖。 愛知県岡崎  
市「源氏ぼたる河合保存会」、文化庁の助成金で増殖の研究。 熊本県観光振興課、観光とホタ  
ルを結びつける予定。 栃木県那須町南ヶ丘牧場、観光放場の中でホタルの発生を計画。

#### (2) 保護条例について

国、県指定の天然記念物指定ならびに保護法、市町村の場合は保護条例制定、罰則の制定も可。  
保護啓蒙運動の拡大が重要。

#### (3) 研究、増殖などの経費

岡崎市は国(文化庁)より補助金があり、焼津市では予算計上、殆ど個人の出費。

#### (4) 観光とホタルの関連

まずホタルを殖やすことが先決で、あくまでも観賞のみ行う。ホタル祭を行いその行事を通じ  
て保護運動と結びつける。

### 2 部会 人工川および河川環境の保全について(参加者12名)

#### (1) 人工川の作成及び管理上の問題点

水路の幅、長さ、深さ、傾斜に注意したい。水路の岸は三角形がよい(清掃時に都合がよ  
い。)人工川でも河岸環境を重視したい。産卵場所まで作るには時間がかかり大変である。

公園、ホテルなどでは照明が問題になる(できるだけ暗くする)。農業等の流入を防止する  
必要がある。遊歩道はできるだけ、せまくしたい。公園、ホテルの場合、どの程度に自然を取  
り入れられるか(美観をそこねることを理解できるか)。

#### (2) 自然河川を守る場合の問題点

とにかく岸辺の植物を大切にしたい。人工川もよいが自然の河川を守ることが急務。護岸に  
ついての指導をすべきだ。照明を少なくするようお願いすること。常緑の広葉樹がよい。

### (3) 当ホテル（白雲山荘）の人工川についての問題

水質は現状でよいが、コケのついた石、石灰岩、貝がら等をいれる。池から水の落ちる場所に植物（水草類）を植えたい。川の中に4～5ヶ所、堀を作りたい（傾斜が必要）。人工川の周辺に植物（草、樹木）が少なすぎる。

前の川も含めた保護を考えてみてはどうか。照明にも問題があり、柱を低くする必要がある。ホテルに必要な環境は、ホテルの美観をそこねるがその点はどうか。

幼虫の放流からスタートすべきだ。ゲンジでなくても、ヘイケで十分である。川幅をもう少し広くできないか。

## 3部会 ホテル、カワニナの人工飼育について（参加者14名）

### (1) ホテルについて

- 1) 幼虫飼育における経過のバラツキ 卵は0.1～0.03 gの差があり、このまま成長しても相当の生育差ができるので仕方がない。1年で成虫にならないものは、2年ないし3年かかることになる。
- 2) 卵の乾燥方法について 一般的に冷暗所で保護するが、浅田氏による乾燥方式は輸送日数が長くなる場合などを考え、必要と思われるので研究結果を発表していただきたい。

### (2) カワニナについて

- 1) 地下水利用の人工川に藻が発生して、カワニナの成長低下が話題となり、水温の低下と発生とは関係があるようで、発生によって酸素不足となる場合があるから、水温を上げて予防出来るのではないかなど。
- 2) 子目の増殖方法については、村上氏より発表とさらに詳細などがあり大変参考になった。
- 3) カワニナの外敵について、鳥類、魚類等多くの外敵があり、繁殖地には植物を促す方法、および飼料の供給、環境の向上などで改善を図る。

### (3) その他研究体制について

- 1) ホテルの生態につき学術的な基礎研究を、大学、試験場、博物館、動植物園等専門の方々に行ってほしい。
- 2) 人工増殖による繁殖方法を、人工川および養殖器（水槽）等で、金魚、熱帯魚を飼育するような簡単な方法の研究。
- 3) 自然繁殖ならびに生息環境の改善等の研究。